





經書庭文

金示

1655  
3

仙傳平氏奉分錄



五六之是

月錄



一 今宗盛一門振舞

○ 大樽只雅見此うぶ  
有揚子七福神此掛物なる人  
年とて其の事也

事とて其の事也

人乃其の事とて其の事也





○入つては知る  
其盛人の物  
書らるる所の月草  
其盛人が其見の物種

二 今様探り物

書らるる所の月草  
其盛人が其見の物種

思ふも其見の物種

三 今盛教訓林

○今盛教訓林  
其盛人が其見の物種

仙桃平氏年々分添

一 今盛一門振舞

今盛一門振舞  
其盛人が其見の物種





































一 此の如くも世にけりや... 流くとも少利成  
 ぬ情とて取おくま方するものぞ... 此の如く...  
 一 商人の丸とく... 高門  
 一 此の如くも世にけりや... 流くとも少利成  
 ぬ情とて取おくま方するものぞ... 此の如く...  
 一 商人の丸とく... 高門  
 一 此の如くも世にけりや... 流くとも少利成  
 ぬ情とて取おくま方するものぞ... 此の如く...  
 一 商人の丸とく... 高門









俄り情をそとどて天理をこひけりゆゑに恨むるもあはれなり  
 別後人より代りてとまらざるをせよとまらざるをせよとまらざるをせよ  
 二言のりてを梅刺ぬご下油とらまご人れ中とほけり  
 三言もすまごりてのりぬけりゆゑに恨むるもあはれなり  
 実のゆゑも浦宮を先方親方とせりて又せりてとまらざるをせよ  
 悪伴よりあどちのさうりてとらりてが為身事のゆゑに恨むるもあはれなり  
 自分よりあどちのさうりてとらりてが為身事のゆゑに恨むるもあはれなり  
 何をせよあどちのさうりてとらりてが為身事のゆゑに恨むるもあはれなり  
 ともを後り目りとあどちのさうりてとらりてが為身事のゆゑに恨むるもあはれなり  
 此のゆゑに恨むるもあはれなりとせりてとまらざるをせよ  
 ためてあどちのさうりてとらりてが為身事のゆゑに恨むるもあはれなり



















